

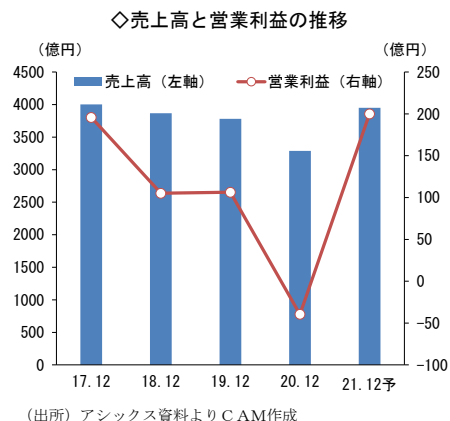
# 企業ニュース アシックス

(東証1部: 7936) <https://corp.asics.com/jp/>

作成者: 高見澤晶子

## 主力分野への経営資源集中で収益性改善

競技用シューズ国内最大手。基幹ブランド「アシックス」のほか、ファッションシューズブランド「オニツカタイガー」を展開。20. 12期の地域別売上高構成比は、日本27%、北米19%、欧州25%、中華圏12%、オセアニア6%、東南・南アジア3%、その他8%と、海外が約7割を占める。主力のパフォーマンスランニング（高機能のランニングシューズ）への経営資源の集中により、収益性は大幅に改善している。パフォーマンスランニングの中でもトップアスリート向けの「メタスピード」シリーズは着用率が向上。会社によると、このシリーズを着用したアスリートが国内外の大会で自己ベストを更新する例も多いとのことで、引き続きグローバルで存在感が高まると期待される。



## 好調な業績推移、今期3度目の上方修正を発表

21. 12期・第3四半期累計（1-9月）の連結業績は、売上高が3, 222億円、前年同期比30%増、営業利益が358億円、同991%増。カテゴリー別では、売上高の約半分を占めるパフォーマンスランニングが同38%増収と好調。地域別では北米、欧州、中華圏、オセアニアが同30%を超える増収となった。利益面では、収益性の高い商品の販売好調や値引き抑制で粗利益率が50. 1%と同3. 3ポイント改善したほか、経費コントロールも寄与した。

21. 12期の通期会社計画は、売上高が3, 950億円、前期比20%増、営業利益が200億円、同240億増（前期は40億円の赤字）。8月公表の修正計画に対し営業利益で55億円を増額、上方修正は今期3度目となる。売上高の計画を据え置いたのは、第3四半期のベトナム工場の稼働停止による商品供給減の影響が発現するため。ただし、第4四半期（10-12月）は営業利益が158億円の赤字でも達成可能な計画であり、やや保守的な印象を受ける。なお、工場は10月より稼働を開始、年内は段階的に稼働率を上げ、来年には通常稼働に戻る見込み。

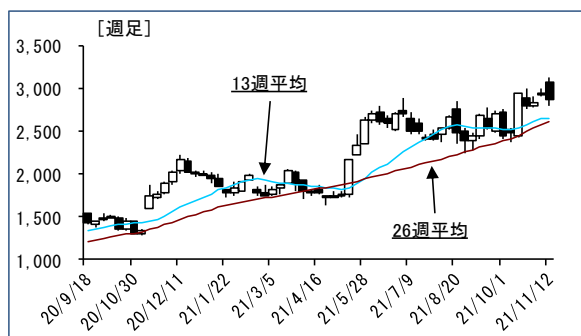
### [株価動向・投資判断]

短期的には商品供給減の影響を受けるが、グローバルでのプレゼンス向上による中長期での成長ストーリーは不変とみる。

<7936 アシックス 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19. 12	378, 050 (▲ 2)	10, 634 ( 1)	10, 101 ( 15)	7, 097 ( -)	37. 9	記30. 00
20. 12	328, 784 (▲ 13)	▲ 3, 953 ( -)	▲ 6, 923 ( -)	▲ 16, 126 ( -)	▲ 88. 2	24. 00
21. 12 予	395, 000 ( 20)	20, 000 ( -)	19, 000 ( -)	4, 000 ( -)	21. 9	24. 00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/11/12)	2, 881 円
年初来高値 (高値日)	3, 125 円 (21/11/8)
同 安値 (安値日)	1, 635 円 (21/4/21)
予想 P E R (21. 12 予)	131. 9 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	828. 1 円
P B R	3. 48 倍
予想配当利回り	0. 83 %
(1株当たり配当金年24. 00円)	
R O E (20. 12)	▲ 11. 6 %
発行済み株式数	18, 987 万株